

第2回 瑞穂市老人福祉計画策定・推進委員会 会議録

日時 平成26年10月24日(金) 13:30 ~ 16:00

場所 瑞穂市役所3階 第一会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 老人福祉計画の基本理念と方針について(資料1~3)

事務局	事務局より説明 ・介護保険制度の改正について 「地域包括ケアシステムの構築」「認知症ケアパスの作成」「認知症初期集中支援チームと地域支援推進員」「地域ケア会議の推進」「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」 ・施策体系案 「厚生省基本指針の概要」「計画の体系図」「基本理念」「基本方針」「施策の方向性」 ・老人福祉計画(案) 「第1~4章」
会長	ありがとうございます。 それでは、何か全体を通じてのご意見、ご質問はございますでしょうか。 資料1、2は考え方、厚生労働省の指針ですね。 この第1章、第2章につきましては、現状を述べているだけですので、第1章の「計画策定にあたって」という項目について、何かご質問、不明な点がございましたら。
委員	先ほどの説明の中で、高齢者の将来推計について、32ページになると思うんですけど、ここにデータがないんですが、これから載ってくるってことですか。
事務局	はい。
委員	すみません、ありがとうございました。
会長	ありがとうございます。 とりあえず第1章について、何かご質問はございませんでしょうか。 それでは、第2章の「高齢者を取りまく現状と将来の姿」について何か。 日常生活圏域ニーズ調査結果も示してありますが、これを基にして計画がつけられるということで、ある面では非常に重要だと思いますが、特にご質問等はございませんでしょうか。 色々なアンケート結果が16ページから書いてありますが、例えば「運動リスク」と書いてありますよね。「運動リスク」があるから、ではどうしようかということは、盛り込まれている。例えばの話ですが。
事務局	実際、数字だけです。 例えば、33ページの「アンケートから見える課題」ですが、課題になってないと感じておりますので、見直しを考えております。

会長	これも色々、例えば「口腔リスク」「閉じこもりリスク」等ありますよね。 調査は、厚生労働省がこういう調査をなささいという方針でやったということですか。
事務局	これはもとす広域連合の実施した「日常生活圏域ニーズ調査」での一般高齢者の数値です。
会長	それをまとめて出されたものですね。 第2章はよろしいでしょうか。
委員	先ほどの「アンケートからみえる課題」で、もう少し見直すとおっしゃってみえたと思うのですが、16ページのアンケート集計で、男女別でいうと女性の回答率の方が多いと書いてありますが、アンケートで回答いただいた男女差も考慮しながら見ているのですか。
事務局	今のご質問は、男女の比率を平等にした形で、その割合が高いか低いかにということだと思えますが、一応、これは厚労省の集計の基準で結果を出しておりますが、結果の出し方としましては、現状の数字をそのままの割合で比較させていただいております。 今回、男性、女性というところで、女性の方の割合が多少高いですが、基本的には、その比率について、大きな差は出てきてないと考えております。
委員	多くのリスクで「配偶者以外と二人暮らし」が一番多いというのは分かるのですが、例えば、親子とか、どういったタイプになっている二人暮らしなのですか。
事務局	そこまで細かくは。
委員	分かりました。ちょっと気になったものですから。 親子なのか、どういった形態の家族かと思ひまして。
会長	第2章について、その他よろしいですか。また何かあれば言っていただければ。 それでは第3章に入ります。 先ほど、計画の基本的な考え方で「誰もが楽しく生き生きと暮らせるまちづくり」という基本理念について話がありました。 変える必要はないと思いますが、お互いに助け合う社会づくりをするためには、どうしたらいいのかなと僕は思ったのですが、そのあたりはどうですか。
事務局	よろしいでしょうか。 39ページの基本目標で、IV「安心でやさしいまちづくり」の「やさしいまちづくり」が文言的によく分からないと思ったのですが、実はこれ38ページを読むと分かるのですが、段差の少ない歩道とか、ユニバーサルデザインとか、そういう「生活環境づくり」が「やさしい」のだなど。 ただ、施策の方向性で「住民参加による支援活動の活発化」とか「住まいの確保」と言ったときに「安心でやさしいまちづくり」というのがどうなのかと。 先ほど会長が言われました、お互いに助け合うというような、そういう文言の方がいいのかなと思ったりもするのですが。
会長	「安心でやさしいまちづくり」というのは、54ページ、55ページに「住民参加による支援活動の活発化」「住まいの確保」とありますが、38ページの「安心で質の高い生活を送るために」とこういう考え方もあると、何となく食い違ってくると思ひます。 安心して暮らせる社会というのは、ケアハウスとか普通の生活ができるように支援していくことかなと。
委員	健康な高齢者の方はたくさんいる。そういう方を活用してやっていくという具体的なものはな

	<p>いですか。それが一番大事なことだと思います。</p> <p>国も県も金がない中で、高齢者でもまだまだピンピンしてる人をいかに活用するか。そうやって支え合う気持ちでいかないといけない。</p> <p>高齢者の方がひとつやってみようかという気持ちになる策を行政が考えていただいて。</p>
事務局	<p>今のお話ですと、39ページの基本目標の「健康な高齢者が活躍できるまちづくり」の話ですよ。それから、施策の方向性のところで、今のお話は入ってくると思います。</p> <p>話が戻ってしまうのですが、会長の言われたお互いに助け合う社会づくりというのが、基本目標の中に出てきてないなと思います。</p>
会長	<p>今、言われたみたいに、最終的に国の思いは、地域住民が元気な高齢者を支える社会をつくらうということだと。</p> <p>ただ、これから3年間でこういうことをやって、高齢者を支えるということは、理解がある人もいるが、全く関心のない方もおられるので、どうやって啓蒙していくのか。</p> <p>お互いに助け合わなければいけないという考え方を浸透させることは難しいと思うが、そういう考え方を計画の中に取り入れ、具体的にはなかなか難しいけど、広報活動をやって。</p> <p>介護が必要になったときは助けてもらうが、元気なうちは誰かを助けてあげてと思いますが、例えば、何かあったときに誰が責任を取るのかとか、そういう細かいことが出てくる。</p> <p>考え方の基本は、お金が掛からないと言ったらおかしな話だが、お金の掛からない支えをどうつくって、その人を支えていくのかと。</p> <p>元気だった人が支えられる側になったときに、また別の元気な方が支えていくという、順繰りの昔良き日本の支えみたいな感じですか、そういう社会を構築していくというような指針を示していくのがいいと思います。</p> <p>ですから僕は、自治会なり、色々な会議でそういうことの必要性を訴えなければいけないと。</p> <p>小地域ケア会議とかで集まってもらったときに、集まった人は支えようとしている方達なので、中長期的に、宣伝しながらということで、10年間かけてそういう社会ができるといいなと思うのですが、何か行政側として、今後10年間の方針として、そういうものはありますか。</p>
事務局	<p>今すぐ、この場でこういうものがというのはありません。</p>
会長	<p>何かいいアイデアはありますか。</p>
委員	<p>参考になるかどうか分からないのですが、先日、課長の方に資料をお持ちさせていただいたので、ライフサポート事業という国の老健事業、モデル事業がありますが、目的としては、今、会長がおっしゃられたように、案を住民からつくっていくと。</p> <p>住民が住民を支え合う仕組みづくりをしていこうということで、補助金を使いながら、ライフサポーターの居場所というか建物を1つ造って、そこを拠点に多くの箇所ですべて住民を育てていくという取り組みが行われています。</p> <p>そこに、理念とか、教育という部分が少し欠けているということで、継続性が難しいことから、少し補助金を使って、昔は2級ヘルパー、今は主任者研修の半分ぐらいの工程で、まず最初に、教育プログラムを導入として受けていただくと。</p> <p>その後月1回、ライフサポーター会議ということで住民が集まって、どういう活動をしていくのかを検討しながら、介護保険の中では手の届かない、例えば、家の豆電球を替えて欲しいとか、窓ふきをして欲しいとか、お墓参りに行きたいというようなことを、ケアマネジャーのケ</p>

	<p>アプランの中に、インフォーマルなサービスとして組み込んで実践していきます。</p> <p>今年で6年目になりますが、サポーターの人数として大体120名程度で、月に大体200時間から250時間の活動が定着するところになってきています。</p> <p>今、市からの委託で、私どもの事業所で行っている一次予防教室ですが、比較的元気な方もみえるんですが、今年は、大垣市のライフサポーターの方に来ていただいて、住民の方がどういふうに地域の中で活動しているのかを少し確認してもらいながら、そういったことのきっかけづくりができればということで行っています。</p>
会長	費用負担はどうなっていますか。
委員	<p>費用負担は、現在、有償ボランティアという形をとっています。チケット制で1回500円で、ガソリン代程度は出るという形です。</p> <p>1チケットを30分500円、チケットをまとめて配布したり1枚ずつの方もいたり、そのサポーターの中で、お一人、コーディネートをされる方をつくって、その方がコーディネーターをやっていると。</p>
委員	<p>それは岐阜県も取り組みだして、来年度は各市町へ聞こえてくると思います。</p> <p>本人が何千円という負担をして、自らそういったサポーターになりたいという人が手を挙げて申し込んで、そういった人を養成しているという講座を県がやってくれている。</p> <p>県が委託をしてという形で進んでいます。</p>
会長	生活介護の一部を面倒見るといふ人達をつくる。家事援助ですね。
委員	<p>もともと、そのライフサポーターは、独立していこうと。</p> <p>つまり、補助事業ではなく、有償ボランティアという形で、その住民の取り組み自体で収益を上げ、自分達でできる運営を目指していこうと。</p> <p>3年目までは赤字だったのですが、4年目ぐらいから少しトントンという形になっています。</p> <p>色々な福祉施設さんで、あるいは行事ごとで、少し大きいサロンみたいな形で出張させていただいて、そこでの収益を活動資金に回して、住民が自分達で採算をとってというふうです。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>最終的には難しいでしょうけど、元気な高齢者が、介護が必要な高齢者を支えるという形を、基本的には無償で支え合う。</p> <p>ただ、何かあったときに、事故があったときにどうするのかというところだと思うのですが。</p> <p>基本方針で、元気な老人が、介護が必要な老人を支えていくという体制をとっていくのが、一番市にとっても、国にとっても、我々にもいい取り組みかと。</p> <p>もし、そういう取り組みをやるとすると、行政としてどこが担当していくのですか。</p>
事務局	福祉生活課です。
会長	福祉生活課が、そこをところを広報をしながらやっていくという。
事務局	<p>瑞穂市だけでというより、広域管内くらいの大きさで、もとす広域が募集して、それからライフサポーターを養成ということを前に申し上げたのですが。</p> <p>それを市、町でやって欲しいような感じでしょうか。</p>
会長	<p>もっと狭い、例えば部落とか。</p> <p>隣でも知らない人というか、そういう人もおられる。</p> <p>難しいけれども、そういうことは、今のところ計画にはないわけですね。</p>

	でも10年、10年は長いけれども、たった10年ということもありますし。
委員	資料1の「介護保険制度の改正案の主な内容について」ですが、その「地域包括ケアシステムの構築」の④「生活支援サービスの充実・強化」で、今、もとす広域連合で介護保険事業計画が策定されていると思いますが、「生活支援サービス」を提供するということに、どういう形でやっていくのかは、まだ、これからの検討課題だと思いますが、瑞穂市として、もしくは、もとす管内として、どう統一していくのか。バラバラにするということもありますが。今回の老人福祉計画と合わせてということになっていると思いますし、調整されてらっしゃると思いますが、基本方針があつてのことだと思います。その中に、社協とかの関係機関のこともあると思います。ただ、ここにどう載せるのかと言われると、ちょっと問題なのですが。
会長	広域連合がこういう事業を指図することはないですね。
事務局	ないと思います。
会長	広域ではやらないと言っていましたので、そうすると実行はなかなかできないと。地域包括ケアシステムと言うなら、みんなで支えましょう、地域をつくりましょうという住民の皆さんに協力いただくような宣伝なり、対策をどうやって具体的にイメージするかということが大切。誰かがやらないと。いつまでたっても書いてあるだけ。また今後の10年間なのかなと。今の施策がいいかどうか、ちょっと僕も正確には分からないですが、最終的には、地域住民の方々に理解をしていただきたいということで、宣伝を。具体的には、地域包括ケアシステムを参考にして、小地域ケア会議を開いて、そこで具体的にこれはこういうことですよということをやって、また宣伝しながら、できるだけ声を掛けて。そういう広報を誰がやるのか。誰かが責任をもってやらないと。広域連合や福祉生活課がやるのか。
事務局	福祉生活課がやるのですが、福祉のプロ集団として、どうしても地域包括支援センターの力というのは欠かせないです。
会長	地域包括支援センターが仕事しながら、そういう計画を立ててという。ただ、地域包括支援センターだって、あまり人がいないでしょう。
事務局	そうですね。先程、課長にお渡ししたというライフサポーターの活動の資料を印刷しましたので、今、お配りしてもよろしいでしょうか。
委員	24時間または短時間の業務でやっています。ここに書いてあるのは、話し相手という部分でのサポートということで、ライフサポーターの方が実践している活動報告です。
委員	私の部落で2回目だということで、先般、10月21日、地域包括センターの職員さんが認知症ということで、来てくれてやっていただいた。認知症にならんよんという議題したが、前回、個人情報のことをものすごく言われたので、前回に比べたら、参加者が減っているわけです。個人情報という大きな問題がありますので、本当に難しい。
会長	個人情報とか、それは難しいと思いますが。

委員	<p>声を掛けて、元気ですかとか、そういうことはできるわけですよね。</p> <p>サロンというのは、そもそもが老人会です。それで今は大きな組織になって、200名弱いますけれども、悪くなった人は自然に出ていく。</p> <p>「どうしたの?」と聞いても、「悪くなった」と言われるのです。</p> <p>それが現状だと私は思うのですが、本当に頭が痛いです。</p>
会長	<p>住民の方が参加して、当然、そういう問題にぶつかっていくのですが、やはりそういうことをしないと、今の介護保険もそうですが、そういう体制が崩れてしまう可能性がある。</p> <p>まだまだありますが、基本理念として「誰もが楽しく生き活きと暮らせるまちづくり」という、この表題については特に何か、これでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、基本理念はこのままでということで、それを基にして基本目標というのがあります。4つありますが、この4つが基本的な考え方ですか。</p>
事務局	そうです。
会長	この分け方について、何かご意見とかございますか。
委員	<p>4つに分けてある中で、ⅠとⅢとⅣで、例えば、地域でこの目的に従って、どういうまちづくり、どういうケア型のメニューと出してきたところがたくさんあったとして、当然、予算の枠がありますが、それに対して、一部補助ということで、まず地域のやる気を起こさせる。</p> <p>役人が言うのではなく、地域で自分のところの人口構成や、自分がベターだと思う提案をしてきたら、それを採択して、1つのモデルとしてやって、他の地域に広がってと。そういう補助みたいなものを考えて欲しい。</p> <p>瑞穂市の活性化に役立つものを採択すれば、より広まって、そういうようなことを。</p> <p>みんな今までの流れでやっていますが、そういうソフトな面を出してもらったらどうかと。</p> <p>瑞穂市は新しい人というか、よその人が入ってきているので、いろいろな考え方を持っている人がみえると思います。</p> <p>そういう中で、地域がニーズに合ったものを出して、行政が色々なことに役立つと思えば、それを採択して、その何分の1かを助成でやれば、それを少しのお金でやって。そういうようなことを考えました。</p>
会長	それは、43ページから施策の展開で、具体的にいろんな教室をやっておられますよね。それ以外にそういうことをやっていくと。
委員	そういう住民が考えたことに対して。
事務局	<p>今、委員がおっしゃったようなことを、実は去年、たまたま予算が付いたのでやりかけて、ただ私らも手探りでやっていたので、母体となるものをまずどうしようかと。</p> <p>それはどういうことかということ、地域支え合い事業みたいな名前を付けて、一番初めは、各小学校区で1個ぐらいつつ立ち上げようかと考えて、話を持っていったのです。</p> <p>校区ごとといっても、メインになるのは自治会長さんだったりするので、ご説明をして、趣旨は分かっていたのですが、「なかなかうちでは難しい」と。</p> <p>というのは、自治会も今、どこでもそうですが、いろいろな役員が1年ごとに交代して「私はいいけど、次の人は」とおっしゃるといようなこともあったのです。</p> <p>その時は、ちょうど予算が付いたので、例えば、どこかの公民館を使ってサロンのような形でご飯を食べながらやると、材料費やら、何か色々なお金や、それを役所で見ますよということ</p>

	<p>を、去年ちょっと始めたのですが、なかなか形として。</p> <p>皆さんを呼んで、できれば運動のようなもの、介護予防みたいなことをやればいいなと思ったのですが、そんなことを去年、仕掛けたことがありましたが、なかなか地域のご事情が違うもので、乗ってみえたところはなかったです。</p> <p>今のお話を聞いて、こちらのアプローチの仕方をちょっと考えなければいけないというのと、もう少しメニュー等を、いろいろ整理して何か形づくれば、また違う視点で乗ってみえるというのもあるかなと思います。</p> <p>それはまたもう1回、僕らもリベンジの形でつくってみようと思います。</p>
会長	<p>こういった会議、色々な勉強会もあるのですが、そういうものに参加する方というのは、大体同じ方達が参加される。</p>
事務局	<p>そうですね。</p>
会長	<p>大体そうだと思うので、参加することが大切なのですが、その人達をどうしたらこういうものに呼び込めるかが大切で、多分それだけ健康に興味を持って一生懸命な人は、大体の場合、健康でしっかりした方が多いので、なかなか難しいのですが。</p> <p>項目4つについて、どうでしょうか。</p>
委員	<p>Ⅲ「認知症高齢者とその家族を守る」という表現ですが、「守る」という表現が、保護みたいな印象を受けます。</p> <p>守られる存在なのだという感覚を、受け手が当事者になったとき、僕らは認知症になったら、地域の中で、当たり前を守られて生活していけるのだという感覚にならないか。</p>
委員	<p>この「守る」という。昔から住んでいるという人は、非常に仲間意識が強いわけです。</p> <p>今の20代、30代、40代、50代、入ってきた人達は、そういう意識がまったく薄いです。</p> <p>大体、朝の挨拶もできないわけです。</p> <p>今、認知症について、先進国はギリシャですね。住民みんなが、あそこは認知症の人だということを知っているわけです。</p> <p>我が町も、恥ずかしいという観念が非常にまだ強いですが、何も恥ずかしいことはないわけです。自分も認知症になる可能性があるわけですから、絶対にならないとは言えないわけです。</p> <p>どれぐらいの年のどういう人が行方不明になったと広報しても、住民は知らないわけです。</p> <p>例えば、我が家はこういう認知症がいると名札を付けて、外に出るときには名札を付けていれば、ああ、どここの誰々だとすぐに分かるので、これは別に恥ずかしいことでもないと思います。</p> <p>ギリシャの人はみんな知っているので、1人でスーパーに行っても、やはり注目して見てるわけです。ですから安心して暮らせるわけです。</p> <p>「誰もが楽しく生き活きと暮らせるまちづくり」をするのだから、そういうシステム、そういうふうには我が町もしいないといけないと思うのです。</p>
会長	<p>それはとてもいいことだと思うのですが、ただ難しいのは先ほど言われたように、個人情報とか、権利とかを主張されるとなかなか難しいです。</p> <p>今、言われたことは、僕は本当はやるべきだと思うのですが、知らせたくないという人もいますので、それをどうやって教育して、そんなことは誰にでも起こることなのだからということを、みんなに納得してもらわないといけない。</p>

	<p>名札を付けて歩くと、誘拐とか、いろいろな犯罪が出てくるとか、今、小学生や中学生が、付けないといつも思うのですが、名前とか住所とかは知らせないのがいいだろうと、難しい問題もあると思うのです。</p> <p>一目見て、この人は認知症だと分かると、みんな注意しますが「どこへ行くのですか」と聞いて、ずっと答えられて、ずっと離れてしまうと分からないですよ。</p> <p>面白い考えですし、そういうのをやれたら一番いいと思うのですが、市はそういうことについての考え方はどうですか。</p>
事務局	市全体の意見を、代弁するのは難しいです。
会長	行政としては、どう考えていますか。
事務局	<p>できれば、会長のおっしゃるように、ワッペンなり、何なりというのは理想でいいと思います。先ほどの話ではないですが、一番ショックだったのが、アメリカのレーガン大統領が、テレビで「私は認知症です」とあんな偉い方がおっしゃったことです。</p> <p>何十年も前ですが、あんなことをあんな偉い方が言ったなと思って、なかなか日本でそれを言う人はいないですね。「私は癌です」と言った芸能人はおりますが「認知症です」と言った人はあまりいないなと思って。</p> <p>今日の新聞でしたか、私は認知症ですということで、全国で立ち上がったというのが載っていましたが、日本もようやくと言ったら失礼ですが、みんなに認知されるようになったのだなど、そういったことがこの辺でもできないかなと。</p>
会長	例えばそういう名札を付けるとか、そういう個人情報とか、個人の権利の侵害だとか、そういうことは法的にはどう責任を取られますか。
事務局	自分が知ってもらいたいのためにやることは別にいいと思います。
会長	<p>家族でもいいのですか。</p> <p>認知症の軽いうちはいいとして、重くなると自分では分からないので家族が付けると。</p>
事務局	<p>実は、今日、これを一番最後に出すつもりでしたが「介護中」という名札みたいなもので、ご存じでしょうか。</p> <p>これは、例えば僕が介護をする人で、自分のおふくろに何かやろうとすると、まあ背中でもいいと思うのですが、こうやって持っていくと、おふくろが女子トイレに行くときに、男の人と言っても、実は介護だからと入れるようになります。下着売り場に行っても、実は、私はこうですとすることができると。</p> <p>これは県からきたんですが、静岡だったか初めにやり始めたそうなんですが、これも社会にだんだん認められてきたからかと思えます。これを掛けているからといって、個人情報はどうと言う人は、今まで市にも問い合わせはないので、じわじわと広がっていけばいいかなと。</p> <p>これですと、誰も特定はしないです。おふくろは要介護者なので、私は介護をしているだけだということであって、こういうものでしたらワッペンと一緒にすよね。これだったら何となくできそうな気はします。</p>
会長	もちろん全部にやることはない。希望される方に。
事務局	そうです、希望者だけです。
会長	認知症の可能性があるのでちょっと注意していただけないかと。
事務局	委員ではないので、自分の意見をあまり言ってもいけないのですが、もっとみんなが、認知症

	とはどういうものかとか、要介護とはどういうことかというのを、自分の問題として、自分は今、健康だけど、いつどうなるか分からないというのを一人一人に考えてもらって。
会長	それをどうやってみんに分かってもらうか。広報を誰が担当するのか。認知症はこういうものですよとか、誰かが広報をしなければいけないわけです。 地域包括センターが中心になってやるのか、そちらがやるのか決めていかないと。そういうところを決めていただいてと思うのです。 やる気になれば皆さんやってくれる。そういうものだとして理解してもらえればと、ただ、それをどうやってみんに浸透させるかが難しい。 この基本目標で「認知症高齢者とその家族を支える」というのはおかしいですか。
委員	「支える」なら。
会長	では「支える」ということで。 このⅠからⅣの基本目標についてはこれでよろしいでしょうか。 それでは基本目標を基にして、施策の方向性が色々と示されておりまして。 ここが非常に難しいと思うので、この施策の方向性について、Ⅲの「認知症高齢者と家族を支えるまちづくり」これは非常に抽象的で難しいですが、これは認知症予防教室とか、計画書のあちこちにありますね。認知症だったら認知症の項目1つにまとめて、ここは認知症のことをやっていますと。 「健康な高齢者が活躍できるまちづくり」で「介護予防のための事業の充実」とありますよね。介護予防のためには、どういうことをするかで、病気になって倒れて介護に入る人とか、けがをして介護に入る、それを予防するということですから、病気にならないようにするのは、これは健康推進の問題だけれども。 それから、病気をしない高齢者についてももう少し具体的に分けたいのではないかと思ったのですが、何かご意見があれば。
委員	44ページ「健康な高齢者が活躍できるまちづくり」の中で、「訪問型介護予防事業」と書いてあるのですが「低栄養者訪問指導」で、25年度の実績が「3人」とありますが、これは実践するのが難しく少なくなったのかわかりませんが、事業としてやる必要はないかと。 会長さん、副会長さんが言われたのは、ある程度、対象を広くやってこそで、少人数なら、する必要はないのではないかと。 今までは必要で入れていたかもしれないが、スクラップ&ビルドということで。前期計画のときに言われたと思うのですが。
会長	これは全体的に参加者が極めて少ない。 それよりも例えば、認知症予防するためにはできるだけ多くの人を健康教室なり、集まるような会を考えてやるほうがいいかなと。 老人大学、寿大学といったところでやっておられるでしょうが、結局、何も身に付かない。
事務局	これにつきましては、人数が少ないからすぐにやめましょうではなく、必要性の度合いとか、そういったところも含めて再検討します。
会長	やられることは悪くないけれども、効率が悪いので。
事務局	これは僕からの提案というか、この委員会で、いろいろな教室をやってみえる方、いろいろな施設や、いろいろな事業者の方みえますので、何かそういうところのノウハウ、ここでしゃべ

	<p>ったらいけないことはいいのですが、しゃべっていいことでしたら何か、実際に教室をやってみえる方として、どんなふうに、人が集まらないと話にならないでしょうし、どんなふうにやってみえるかご教示いただければと。</p>
委員	<p>今やっている活動としたら、グループ訪問と認知症対応型のデイサービスをやっている事業所があるのですが、ほかにも2拠点ありまして、1回6名で受け入れてます。</p> <p>二次予防ということで、1クール12回、3か月間ということで、一番最初に来られるときに、少し認知症があるかなという方を、出ていかれるときにスケール評価をして、少し改善したかなという状態までサポートしていくということを4コースやっています。</p> <p>計画書に「忘れん脳教室」と書いてありますが、24年度に1回やらせていただいて、25年度は2コースやらせていただいて、本年度は全部で4コースやります。</p> <p>前回、この会議でも少しお話しましたが、3か月が終わった後で「すまいる教室」につながっていくと思います。</p> <p>今度、介護保険改正されますと、二次予防が全部予防事業というふうに統括されますので、認知症とまで診断されてない方などが、地域支援事業の中で、もう少し通いやすい仕組みというののできてくるのかなと感じています。</p> <p>課題は、そこにいる人員です。事業所のスタッフでそれを支えていくことになりますので、通常、介護保険の中で通ってこられる利用者の方に加えて支援をしていくというところで、どうしてもそのためだけに人員を確保していくことの難しさがあったりします。</p> <p>そこを行政とも相談していきながら、せっかく入り口まで来られた方が継続して、進行の予防につながるような方向性をつくっていったらということで、二次予防の「忘れん脳教室」をやらせていただこうと。</p> <p>一次予防としては、今年、出前講座みたいな形で、年間12回コースと4回コースで、認知症のお話であったり、転倒予防のお話であったり、自分の死の在り方、看取りの在り方ということで、元気な高齢者の方や、少し若い世代の方を対象に、ドクター等にお話をさせていただいて、自分が将来、年をとったときにどういう選択があるのかということ、少しでも地域の中に伝わっていけばいいかなということで行っています。</p>
事務局	<p>〇〇委員さんは、サロンなどをやって、なかなかサロンにお邪魔できなくて申し訳ないのですが、どんな感じになりますか。場所によって内容が違うと思いますが。</p>
委員	<p>サロンは各地区にあります。将来は自立して、継続してやっていただくことが望ましいのですが、まだ職員が支援しなければならないサロンがあります。そういうところは、私らも顔を出して、継続してお手伝いをさせていただいています。</p> <p>まだ未開拓の地域も結構あります。立ち上がりそうだけど、結局、誰がとか、なかなか責任を任されると立ち上げるのは嫌だという感じもあるわけです。</p> <p>話がそれるといけないのですが、先ほど〇〇委員さんが言われた、効率的な運営の仕方の部分ですね。お金の面も関わる。</p> <p>職員さんが通常の業務の中でやるということなので、人力的な問題はかなりあると思います。どういったシステムにしたらいいいのかは、ちょっと私にはまだ分からないのですが。</p>
委員	<p>一次予防は、「もやい」の会場と「牛牧」の会場で合わせると、延べ人数で、年間800名ぐらいです。「もやい」会場は、もう入りきらないぐらいで、毎月60から70。「牛牧」会場は</p>

	<p>30名前後。</p> <p>ただ、それが二次予防になったとき、一次予防の段階でそれだけの方がみえて、予防に対して興味があるのだから、実際そうなったときの受け入れ先、受け入れ体制、仕組みのところを少し整理していくと。二次予防というより、もう少し早期の段階で。</p>
会長	<p>ずっと、年間継続してやらなければいけないと。結局3か月、絶えずそういうことをやってもらわなければいけないと。</p> <p>少ない人数は効率が悪い。お金を使う。健康な人が来る分には、例えば100人でも200人でも、1人の講師でやるのが可能ですので、それを継続的にやっていけば。</p> <p>今、認知症の予備軍の方は何人くらいおられるのですか。</p>
事務局	<p>要介護の認定の感じからいくと、2以上で800人くらい。</p>
会長	<p>その前の人たち、認知症のちょっと早めから。なってからお金を掛けるよりは。</p> <p>一つ一つを見ると、別に悪いことではないですよ。僕は悪くないと思うけれど、どのくらいの広域性を持ってやっているか。予防のために瑞穂市民全体の何パーセントぐらいやるのだということから考えると、もう少し多くの人に対して、継続的に民間を通じてやっていかないと。少なくとも月に1回ぐらいは。</p>
委員	<p>私はこの施策の展開のところで、介護予防、二次予防は、継続的ではない教室なので、それをどう市民の方に続けていただけるか。しかも低予算でとなると、冒頭からあります共助の部分は、本当に大事だと思います。</p> <p>ライフサポートも含めて、最終的に市民の方がどのような形で活動を展開していただけるか。そこにどう誘いかけをして、高齢者の方に集まってもらうかということだと思います。</p> <p>二次予防教室の場合、足がないということをよく言われますので、簡単に歩いていける距離で運動教室といったものを継続的にできる仕組みがあるといいなと思いました。</p> <p>私は以前、勤務していたときに、毎月2回、老人クラブで健康教室をやっているというお話をいただいたことがあります。</p> <p>それはふれあいサロンとは別に組織をつくって、市老連の枠組みの中でしてみえるのか、地域の枠組みの中でしているのか、そこまでは分からなかったのですが、地域で月2回、ふれあいサロンとは別に、高齢者と限定していないが集まってくるのは高齢者で教室をしていると。</p> <p>先生は、知人の娘さんがそういうことをしてるので来てもらってるというような感じで、そういった地域もあったのは確かです。</p> <p>老人クラブでやってるということは、もしかしたら自治会でもそういう取り組みをしているのか、あとこちらには書いてないですが、瑞穂スポーツクラブでしたか、そういったものもありますので、予防の前、一次予防の段階のもう少し若い世代で、ごめんなさい、これは老人福祉計画なのですが、スポーツクラブへ行く高齢者の方もいらっしゃると思うので、そういったものもちょっと織り交ぜながら展開を考えていかないといけないと。</p> <p>スポーツクラブとか、そういう関係機関と一緒に協働しながら、サロンのない地域に、例えば運動などを展開ができる可能性もあるので、今後、関係機関が話し合う機会をつくっていくべきなのかなと思いました。</p>
会長	<p>今の話で、いろいろな事業を、例えば教育委員会もやっているし、健康推進課もやっている、いろいろ同じようなことをやっているのではないですかね。</p>

	それを誰がまとめていくんですかね。
事務局	<p>今、健康推進課、生涯学習課、色々似たようなことをやっていますが、僕も昔、こんなことではと思って各課に話をしましたが、その課の人はその課の人で、こういう目的があってやっているということで、なかなかまとまらないです。一緒にやろうと言うけど、うまくいかない。ですから、恥ずかしながら今でもこうやって残っている。</p> <p>あと、担い手というか、音頭を取る人なのですが、例えば地域包括支援センター。僕は別に責任をどうにかするつもりではないですが、包括支援センターが平成18年ぐらいからできていったという意味を考えると、できれば包括が主体になってほしいというのが僕の願いです。</p> <p>なぜかという、本来、包括は直営のところが多く、直営であってもおかしくないのです。従いまして、政策的なことについては市がやっていくにしても、現場におけるいろいろな施策的などところについては、包括さんをお願いできればいいなど。保健師、社会福祉士、ケアマネジャー、専門家集団ですので、そこが主体となって本当はやっていけるといいなど。ただ、今そういう体制にあるかという、それはまた考えないといけないと思います。</p>
会長	そうすると福祉生活課の下に。
事務局	もちろん、上下はないので。
会長	独立した形でいるわけですね。
事務局	<p>そうですね。実は地域包括支援センターは、もともと介護保険の関係もあって、広域連合との委託契約はあるのですが、実際、私どもと包括で直の何かがあるかというところはありません。</p> <p>それを今、ちょうど来年度を見据えて、その結び付きを何か考えようかと、別にこちらが監督者だから上から物を言うとか、そういう意味ではなくて、きちんと連携ができるようにやろうというのは話をしています。</p>
会長	<p>連携を取ってやっていただくのはいいことだと思います。</p> <p>時間もだいぶ過ぎておりますので、施策の方向性について決めていきたいと思っています。</p> <p>まず、基本目標のⅠ「健康な高齢者が活躍できるまちづくり」の施策の方向性として「介護予防のために事業の充実」「社会参加による生きがいのづくりの支援」というのがありますが、この方向性でよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>この計画は27、28、29の3か年ですね。</p> <p>ここに実績値が書いてあって、目標値はあくまで推計で、それはそれでいいのですが、事業として、3か年でこの達成率がどういう推移で進むのか。</p> <p>来年度からの3か年の見込みを数値で出して、それで29年の目標が出てくる。</p> <p>毎年、それに合わせて進行管理して、もしおかしいと思えば、そこで修正しながらやっていくということにしないと、これは意味がないと思います。</p> <p>過去の実績といっても、それがどれだけ達成率があったのか出ているならいいけど、3年サイクルでまた召集して、作る時は大変で回数を重ねるけども、次年度、3年目は。</p> <p>この事業の進行管理は、何かあるんですか。</p>
事務局	それは5ページのところ「計画の策定と推進体制」にございます。
委員	実際やってみればいいです。
事務局	おっしゃるとおりです。
委員	前のやり方を見直して、おかしいと思えば、またさっき言ったようにやられたほうが。

	業者さんは、今までのとおりが一番楽で。同じこと繰り返すだけですから。
会長	行政がこれを踏まえてやってくれるってことですね。
事務局	はい、今のお話で、27年、28年、29年の数値ですね。
会長	その数値目標に従って、27年度に、年度の途中でも、進行管理をしながら検証をして、新たにまたご意見をいただいて、これはという事業、やったらいいではないかというのが出てくるかもしれないと。 何かその他にございますでしょうか。 ないようでしたら、Ⅱ「地域包括ケアシステムに向けたまちづくり」で4つ並んでいますが、施策の方向性に関してはこれでよろしいですか。 Ⅲ「認知症高齢者とその家族を支えるまちづくり」で「認知症ケアの充実」とありますが。
事務局	43ページ「地域包括支援センターの充実」と、50ページ「各種相談」のところで、事前に社会福祉協議会さんからご意見をいただいておりますが、よろしいでしょうか。
委員	ちょっと変更したい箇所があります。50ページの相談の部分で変更があります。
事務局	あとで、ここに載せたいものについていただけますか。
委員	分かりました。 もう1つあります。52ページの「買い物等支援事業」ですが、そこに「新規」とありますが、現在、自治会さんとかとお話し合いをして進行中なのですが、確実に決まっているわけではないので、この「新規」を「検討」として欲しいと。
事務局	検討中という、考えているよと。
委員	そうです、「買い物等支援事業」で、もう一回確認して。
事務局	先ほど、会長が言われました、認知症だったら認知症の項目1つにまとめてということで、45ページに戻るのですが「認知症サポーター養成事業」これは認知症絡みになりますのでⅢへ移します。あと、ちょっとどうかなと思うのは「忘れん脳教室」と「元気教室」。
委員	今「忘れん脳教室」とおっしゃったのですが、ここに理学療法士は。作業療法士は入っている。
委員	多分、うちが出している文章のため、ここに理学療法士と入っていないのだと思います。 今回の6回コースの中で、6名の参加者の方に学校に行っていただいて、作業療法士であったり、その作業療法士とは別に組を作ったりということをしていくのですが、そこに作業療法士は結構な人数が入るのですが、実際にこの活動の中に、理学療法士が入ってなかったの。
会長	それではⅣ「安心でやさしいまちづくり」で「住民参加による支援活動の活発化」「住まいの確保」これについてはどうですか。
委員	「住まいの確保」ですが、今、有料老人ホームとか、例えば、岐阜市とか大垣市とか、ものすごい勢いで建っていますが、そこにそれだけの人が入っているかという、入ってないです。 これは国交省とか、厚生省とかの管轄で、特養の待機者がどれだけいるかという、県が調べるんですが、実際に運営していて、数値と実態が合っていないと感じます。 昔は4年待ち、5年待ちというのはざらだったのですが、今は、待機が結構早く回っていくようになっているのが特養の現状です。 高齢者人口と照らし合わせたときに、これから瑞穂市がもとす広域の中で、どれだけ住宅の整備を計画していくのか。
会長	地域密着型特養ということで、基本的にはもうそこで待機者は基本的にゼロにするという話を

	しましたよね。
委員	<p>今の話で、特養ですが、待機者が結構いますということで、毎年アンケートを取っています。担当から待機者に連絡しますと、もう亡くなりましたということで、ものすごく飛ぶのです。うちも2年ぐらい前に比べますと、待機者は半分ぐらいに減りました。</p> <p>有料老人ホームが増えましたし、その辺ですね。</p> <p>厚労省で10万人増えて52万人という話が出ていますが、実際そんなにはないかと。</p>
委員	<p>有料も満床の状態の所は比較的少なく、そこで人材が確保できない悪循環が生じている。</p> <p>地域の中で確保すべき住まいの数というところをきちんと見ていかないと。</p> <p>人材がないよ、建物はあるけど、人も入っていかないよということが、数字と現実で少し乖離しているというところを見ていきながら整備していけるといいのかなと。</p>
事務局	<p>今、お話された有料老人ホームについては、ちょうど図書館の前にもできつつありますし、喫茶店の跡地もそうになりましたし、たくさん建ちました。</p> <p>私ども市は、県から建ちますよと、県のほうでいろいろ話があって、意見書を出してくださいと来るのですが、そこで建ててはいけませんとか、もういりませんとか、そこまで言えません。</p> <p>現状として具体的に聞いて、老人ホームでも、満床ばかりになっていませんよ、利用者はこういう状況で、単に建てて大丈夫ですかというようなことを、書いて送るのが精一杯です。</p> <p>住宅施策では、うちは昔から、名古屋や岐阜のベッドタウンとして、良好な田園都市の中で住宅を建ててくださいと推進してきたというところがありますので、見直しとなると、総合計画という市全体をどうしようという計画がありますが、そこで打ち出していくしかないかなと、転換というか、何か考えなければいけないと思います。</p> <p>同じような話で、空き家も増えていきますので、空き家の活用ということも含めて、住宅施策は考えていく必要があると思っています。</p>
会長	<p>いろんな意見が出てまとめられてないですが、あと、ご意見がなければ、よろしいでしょうか。ちょっと休憩しようかなと、すみません。</p>

(2) 認知症予防の施策について (資料4)

会長	<p>再開したいと思います。</p> <p>議事(2)「認知症予防の施策について」説明を願います。</p>
事務局	<p>事務局より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修「認知症シンポジウム」 ・前回の委員意見 ・認知症の概念図 ・関係者の役割 ・市(福祉生活課)の役割
会長	<p>認知症予防に取り組むためには、こうした方がいいのではないかと、ご意見があったら出していただければと思います。</p> <p>みんなにこういうことを周知したり、認知症についてのPRと、それから地域がどう支えていくとか、認知症に対する広報というのは。</p>
事務局	<p>そうですね。研修会の場合ですとか、そういう所ということになるかと思っています。</p>

会長	そういう機会にあらゆる人を通じて、認知症に対する理解を深めてもらうということをしていかなければいけないのかなど。
事務局	瑞穂大学の女性学部というのがあります、そこで10月30日に、認知症予防についての講演会を予定しています。
会長	寿大学ですか。あれは同じような人が来られますか。
事務局	登録した方が400人くらい。
会長	400人の方が、毎回でなくても来られるという。
事務局	月1回は。実際は、2月か3月ぐらいに登録をして、登録すると何百人となります。 1年間のカリキュラムが決まっています、大体、4月か5月には、皆さんに予定表が配られ、女性学部ですと400人くらいです、高齢のほうですと、もうちょっと多いですが。
会長	その女性のご登録は重複してもいいのですか。
事務局	大丈夫です。ほとんどの女性の方が、寿にも入っています。
委員	認知症の方が徘徊されたとき、位置情報が分かる物の貸し出しというのは。
事務局	介護保険で賄う部分以外はないです。
会長	ケアパスの作成というのは、これは何でしょうか。
事務局	例えば、包括に相談にみえた場合、チェックリストみたいなものをしていただいて、認知症の各相談場所を紹介してといったものを作ることになっています。 医療機関、相談する場所とかを載せることになります。
会長	オレンジ手帳については、便利なので、もとす管内でも話をして、これから始めようと思っているので、それと重複しないように。 共同で1つあると便利ですので、その中に、例えば行政側で必要な情報を書いてもらって。 地域連携パスがありますが、そういったことを認知症でやろうということで、この地域でもぜひ始めたいなど。
委員	初期集中支援チームとリンクしている。 認知症があつて初期集中支援チームがあつて、一連の流れの中で、診断に至って、診断から在宅生活のサポートと、急性期の支え方をどうするかというところから、また在宅か施設への一連の流れを地域の中で探していくみたいな。
会長	初期集中支援チームが医療に行ってくださいとか、ケアマネジャーさんに相談してくださいと。初期集中支援チームとは。
事務局	議事1の「資料1」で説明させていただきましたが、「認知症初期集中支援チームと認知症地域支援推進員」というのがあります、これは基本、地域包括支援センター等に設置をすることになっております。 実際に、これに類するようなことは、現場において、連携とかはできているけれども、チームとか推進員といった名称では存在しておりません。 このチームなのですが、構成が、地域包括支援センターとお医者さんが必ず1名必要となっております。 つまり、医師会との連携が絶対必要になります。
会長	これはそうすると、認知症の診断を受けた人を集中的にサポートしましょうと。 初期のほうはもちろん多いですね。

事務局	そうですね。本人やその家族に対し、初期集中支援を行う。 専門医療機関や主治医やケアマネさんと連携をとりながら。
会長	認知症についてはよろしいでしょうか。 特にないようでしたら、今日、帰られて、何か言い足りないことがあったら、福祉生活課にご連絡いただいて、11月一杯にお願いしたいと思います。

(3) その他

会長	その他、何かございますでしょうか。
事務局	事務局より説明 ・今後のスケジュール
会長	その他、何かございますか。ないようでしたらこれで終わりにしたいと思います。

4 閉会

事務局	これにて、第2回瑞穂市老人計画策定・推進委員会を閉会させていただきます。 本日は、長時間にわたりご審議いただきまして、誠にありがとうございました。 お帰りの際は、お気をつけてお帰りください。
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------